

(1) 第2回アドバイザリー会議での主なご意見と対応について

【ファシリテーター】

- ・本日は第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針（最終案）と付属資料（案）についてご意見をいただきたい。
- ・今回は2段階で進めることとし、第1段階では前回の会議で意見をまとめた資料3「第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針（素案）に係るアドバイザリー会議での主なご意見と検討結果及び対応案」と資料4「第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針（素案）に係るパブリックコメント結果と対応及び考え方について」、合わせて資料1についても事務局から説明する。その後みなさんからご意見をいただきたい。
- ・第2段階では資料2について事務局から説明し、その後みなさんからご意見をいただきたい。
- ・それでは事務局から資料1・3・4について説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・資料1は前回第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針（素案）を示し、ご意見いただいた内容を事務局内部でも精査し、修正を加えた。修正した箇所は赤字にしている。
- ・資料3はアドバイザリー会議でいただいたご意見の結果と対応案についてまとめている。
- ・資料4は1～2月に実施したパブリックコメントの結果と対応及び考え方をまとめている。
- ・まずは資料3のみなさんからいただいたご意見の対応について説明する。資料3は構成員の名前を五十音順にしてご意見を掲載している。ご意見の最初に丸数字で通し番号を記載しているのでご覧いただきたい。ご意見の内容としてはこちらで要約した内容にしている。ニュアンスが異なるなどの場合はご指摘いただきたい。
- ・いただいたご意見を22の項目とし、主なものについて説明する。
- ・1つ目はA委員からのご意見で、素案の5～11ページの事業プランについて、ピクトグラムが小さくて見えづらいとご指摘いただいた。各事業プランの右側にピクトグラムをつけているが、文字を外したピクトグラムに修正した。

- ・ B 委員から素案 10 ページ【自主事業（居場所・仲間作り）】の掲載内容に対するご意見を③～⑤に記載している。
- ・ ③ハード面も検討の余地があるのではないかというご意見で、机や椅子の設置、靴を脱いでいられるなど、ゆったりくつろげるスペースの整備についての広島駅の例を挙げてご提案いただいた。これについて、はっちの担う会所場作り居場所作りという点では役立つ内容だとは思われるが、実際ハード面の改修となると、市内外からさまざまな世代の方が来館される施設なので、来館者のニーズの把握や各分野の方の意見を伺いながら必要性を検討したいと考えている。
- ・ 一方でこれまでマチニワのダンボール迷路や人工芝の設置なども実施している。その際は靴を脱いで利用いただいている。その他に季節も関係するが、キッチンカーイベントなど内容に応じて暫定的に期間限定的にスペース実験は可能かと考えている。そうしたことはこれからも継続しながら、来館者のご意見などもお聞きし、検討したい。
- ・ ④⑤について。若者の居場所というところで、学生以外も含めて主体性がなくても気兼ねなくいられる居心地のよい場所が常設されるとよいという趣旨で受け止めている。資料 1 の 5 ページ「会所場づくり関連事業」の事業プランとして「多世代が快適に利用するためのあり方の検討」の内容に含むと考えている。
- ・ また中期運営方針に記載している若者について、市の施策で言う若者は学生を指す場合が多いという話が B 委員よりあったが、決してはっちで行う事業について、若者イコール学生と限定はしているわけではない。これから若者の居場所作りも施策として検討していく中で、このような誤解を生まないような形でチラシに記載や広報するなど工夫していければと考えている。
- ・ 続いて、C 委員からご意見⑥⑦をいただいた。事務局としては、はっちのインフォメーションは観光案内所の役割も果たしている。VISIT はちのへに業務委託しており、観光振興の面ではインフォメーションと 1 階展示屋台などはっち館内にある観光情報発信についてソフト・ハードの両面から取り組んでいる。その他に市の行政部門にある観光課など関係機関や団体と一緒に話をしていければ市全体の観光のためになるのかなと思っている。取組の方針の中に「連携」を記載しているので、これから強化してできることを一緒に考えていきたいと思っている。
- ・ 続いて D 委員からいただいた意見のうち⑨⑩について。
- ・ ⑨ライブラリーの場所が 4 階ではなく 1 階にあるとよいというご意見について。開

館当初は2階にあった。3階には三浦哲郎の文学コーナーがある。当初2階にあったものの、相当数の盗難があり、ライブラリーが4階に移った経緯がある。1・2階は防犯カメラを設置しているが、実際は本を館内で持ち歩くことができちゃう。そのため本をきちんと返したかどうかまではっきりわかるような状況ではない。これが盗難の発生原因ということで、3階に少し残して、基本的には4階に本を集約したという経緯がある。そのため1階に常設するのは難しいと考えている。ただブックフェスなどブックセンターと、連携や関連した企画の中で、人目が行き届くようであれば、D委員からいただいたご意見と趣旨が少し異なるかもしれないが、そういった形で対応はできると思う。

- ・⑪のまちぐみの活動について、ふわっとした強制的ではないボランティア活動という評価をいただいております、ものづくり活動などクリエイティブな側面もある。またまちぐみは居場所作りという役割も果たしている。数字の成果という形でお話しづらいところもあるが、会所場作りや居場所作りははっちの役割でもある。市民の皆さんによる中心街の歩道補修活動など内容に応じて、中心街活性化や市民のまち作りへの関心を高めるような活動について、連携して居場所作りにつなげていければと考えている
- ・続いてE委員のご意見のうち⑫と⑬について。
- ・⑫の会所場作りで2階から上の誘導方策、特に4階ものづくりスタジオのあり方の現状について自主的な動きが欲しいというご意見。こちらは事務局としてもやはり課題と捉えている。これについては2階から上の階への誘導工作もあるが、ものづくりスタジオの元々の趣旨を入居者にも理解していただきながら、連携していければという点もある。理想としては自主的な活動に繋げていくことなので、実現するために、できることとして出ささせていただいてるのは、まず今はものづくりスタジオの入居者募集をしても、応募がたくさんあるような状況ではないので、もっと競争が働くような形で公募ができれば、より魅力的なお店が購入するというような点で情報発信の仕方を工夫した方がよいと考えている。その都度の情報発信ではなく、通年でもものづくりスタジオがあることをお伝えし、この時期に入居者を募集しているというように、見える形で出すことによってタイミングを合わせて新しい入居者を掘り起こせればと考えている。
- ・入居してからの支援についても今までSNSなどの研修も実施したが、それ以外にも例えば商工会議所や市役所の商工課など起業家支援を行っている部署があるのでうまく連携できればと思っている。そして今の段階では具体的な案は無いが、今後は

関係機関と打ち合わせをしながら、できることがないか探っていく。

- ・ 続いて⑮。自主事業についてD委員から無くなった事業はあるのかとご質問を受けて、和日カフェなどの説明に対してE委員より復活してもいいのではないかとご意見をいただいた。一方で事業が増えるだけでは限界があるので、事業をカットすることも必要ではないかとご意見をいただいた。
- ・ 無くなった事業を復活させることは可能。今年2月に実施した15周年企画では高橋みのるさんやちびっつ@さん、ツリーハウスを制作された木村勝一さん、安田コレクションの安田勝寿さんといった開館当初から関わっていただいたアーティストの展示を実施した。普段は作品が館内に展示されているのは当たり前のように思われるかもしれないが、実際に作家が会場で展示をすると、それを見た市民の方により魅力が伝わる。はっちひろばのツリーハウスもインパクトがあった。同じような企画も改めて実施すると魅力的に思えることもあるので、一度無くなった企画を改めて実施するのは可能性としてあり得ること。過去に実施して好評だったものやその時の事業に合ったものであれば、上手く取り入れて復活させることはあり得る。
- ・ シーズイベントのように融通の利く事業もあるので、そういうところで実現していけばいいのかなと思う。
- ・ 続いてF委員からいただいたご意見⑱⑲について。
- ・ ⑱について、ITテレマーケティング協議会の方々にはっちを利用していただきたいということもあり、こちらに情報を流す仕組みがあるというご紹介をいただいた。事務局では、自主事業を実施する際、基本は広報としてホームページや中心街にチラシ配布を行っている。事業内容によっては対象を変えて広報している。例えば演劇に関係する事業であれば、市内の演劇部がある高校にピンポイントでチラシを送っている。ITテレマーケティング協議会に関しては、発足した当初毎月のようにはっち・マチニワをご利用いただいたという流れがある。最近ではパフォーミングアーツ公演事業のアウトリーチで、出張ワークショップPRのためにアプローチして情報を流してご協力いただいた。ITテレマーケティング協議会に限らず、事業に応じて関係や興味がありそうなところへ積極的にその都度工夫をしながら情報発信することは、これからも続けていきたい。
- ・ 続いてG委員のご意見⑳について。資料1の2ページの下段のタイトルを「5年間主な実績」とした。素案の段階では「5年間の成果」と表現したことについて、取り組んだ内容は分かるが、必ずしも成果という内容になっていないのではないかと

ご意見をいただいた。事務局で協議し、付属資料に評価を掲載し、合わせて組み立てを整理し、最終案（資料1）では「5年間の主な実績」とした。ページのスペース限られているため、凝縮した形で本冊（資料1）には掲載している。それ以外の詳細な部分については、この後パブリックコメントへの対応のところで説明するが、数値データなど掲載できるものは付属資料に掲載することで対応したい。

- ・タイトル「5年間の主な実績」に注釈を付けて、「※実績の詳細は付属資料参照」とし。付属資料へ促すような表現としている。修正した部分については、最終案（資料1）を説明する際に、お伝えする。
- ・続いて付属資料案（資料2）について。第3期八戸ポータルミュージアム中期運営方針評価修正案に対して、前回いただいたご意見への対応について説明する。
- ・資料3の⑳㉑で掲載している。㉑はA委員からで、はっちが避難所として機能していることを踏まえて、評価を加えたらどうかというご意見。㉑はF委員からのご意見。「高校生の居場所になっているという点についても触れてみてはどうか」とご提案いただいた。㉑㉑ともに付属資料（資料2）17ページに赤字で追記したので、後ほどご確認いただきたい。
- ・構成員の方からいただいた第2回会議でのご意見と対応については以上とする。

【ファシリテーター】

- ・資料3の説明についてご意見があればよろしくをお願いします。

【C委員】

- ・資料3のご意見⑦について。「展示も改修しながらやっていきたい」と記載あるが、「可能な範囲で展示を改修しながら更新していければ」という意味合いのため、追加修正をお願いしたい。

【事務局】

- ・展示ははっち館内の展示についての改修を可能な範囲でということによろしいか。

【C委員】

- ・はい。

(2) パブリックコメントの結果と対応について

【ファシリテーター】

- ・次は資料4パブリックコメントの結果と対応について説明願う。

【事務局】

- ・それでは資料4について。パブリックコメントを実施しました。募集期間は1月19日から2月20日までの約1ヶ月間実施した。募集方法は市のホームページ、はっち4階、市役所本館と別館、南郷事務所、各市民サービスセンターに素案と意見提出様式を設置。提出方法は電子メール、郵送または持参、FAXで受け付けた。
- ・募集結果だが、ご意見の件数は7件で、個人の方2人からいただいたので、それぞれのご意見の概要と対応及び考え方について説明する。2人のご意見をNo.1～7で掲載しているが、1人はNo.1～3、もう1人がNo.4～7でご意見をいただいた。
- ・No.1のご意見について。親子交流支援プログラムの積極的展開で、親子連れの「居場所」としてはっちがこれまでも利用されているが、離婚別居世帯が増加する中で子どもにとって両親との継続的な交流は心の安定と健全な成長に欠かせないので、定期的な親子交流スペースの確保やNPO等と面会交流支援イベントを明記してくださいという内容がございました。こちらについては、こどもはっちで実際に具体的な取組として、2024年7月から市の委託を受けて面会交流サポート事業を実施されている。
- ・方針の中では資料1の10ページ「7.居場所・仲間づくり」中の「こどもはっち事業」に含まれていると考えており、具体的な掲載内容としては修正しないと考えている。
- ・続いてNo.2のご意見について。共同親権・多様な家族形態への配慮ということで、民法の改正によって両親が協力して子育てする環境整備が求められている中で、はっちとしてもワークショップや講演会などを定期的に行うことを求めるといった内容をいただいた。こちらは市役所全体の中で、子育て支援課やこども未来課などの部署、内容によっては教育委員会などといったところに、このようなご意見があった旨を情報提供することで対応したい。運営方針の内容には記載しないこととする。
- ・続いてNo.3のご意見。具体的な施策例として4点挙げていただいている。上から3点目まではNo.2のご意見と同様に、子育て支援に関するご意見のため、担当部署へ情報提供することとして、中期運営方針の掲載内容は修正しないこととする。

- ・No.3の4点目の施策例「未来を創ろう 2030」の一環として「家族の絆を育むはっち」をサブテーマに追加してはどうかという点だが、最終案（資料1）の3ページ「目指す『8つ未来』」を掲げており、そのうち6番目に「子育てが楽しくなる街」があり、あえてこれを変更や修正、追加する必要は無いかと思っており、新たなサブテーマは追加しないこととしたい。
- ・続いてNo.4のご意見。こちらは方針策定の背景および成果の数値的評価について。5年間の成果が来館者数以外に十分示されていない印象を受けるということで貸館の利用率や事業参加者数、収支状況や市民満足度など民間同様に数値による成果検証を示していただきたい。さらに現場での試行錯誤や改善履歴を蓄積・公開することで、市民の理解と信頼が高まるといったご意見をいただいた。このご意見について検討したところ、確かに数値データによるデータを示した形ではなかったため、現状把握できているもののうち、付属資料には入館者数のほか、施設の利用件数と視察や見学の受入数について5年間の各年度の推移データを掲載することとした。事業参加者数については、自主事業が主となるが毎年アーカイブを作成しており、各事業を紹介する中で事業ごとの参加者数等を掲載している。あとはライトアップ事業のように必ずしも参加者数が計測できないものもある。何人が見に来たのかというのはなかなか難しい。そういったもののトータルを数値として出すというところが、それほど必要があるのかなと思う。毎年事業自体も変わったりする。特にアート系のイベントは必ずしも参加人数だけが指標とも限らない。質的な効果の側面もやはりあるので、そこは難しいと思う。基本的にはアーカイブに掲載しているところをご覧いただければと思う。
- ・あとは収支状況についてもアーカイブに毎年掲載している。人件費や維持管理費、事業費等を掲載しているので、そちらの方をご覧いただくようなご案内をしたいと考えている。あとは現場での試行錯誤、改善履歴の蓄積・公開についてだが、これまでもいろいろな形でいただいたご意見というのは、それぞれ必要に応じて対応したい。しかし公表するような形でまとめ、個別の事案ごとにいろいろな事情があってもなかなか公表しても誤解を受ける可能性もある。スーパーの入口に書いてあるご意見シートのように「こういうふうにしたらどうか」「こういうふうにしました」というような対応はなかなか難しい。特にはこちらの場合、いろいろなことが求められる。「なぜそれをやらないのか」というご意見もあるが、目的からすれば全てやってもおかしくないかもしれない。しかしその中でやっぱり取捨選択しやっている。自主事業にしても会所場づくりにしても限られたリソースで行っている。もちろん苦情への対応やそういった改善については公表するに値するものもあると思うが、そ

ういう形でまとめていない中で、例えば運営方針（資料1）6ページ「2.貸館事業事業」内に「運用改善のための利用者アンケートの実施」を掲載している。このようなアンケート方法を実施し、いただいたご意見をまとめ、「このように対応しました」と掲載することが可能だと考えているので、今後の検討課題としたい。

- ・続いてNo.5のご意見。こちらは貸館事業の窓口対応について。はっちの貸館が1階のインフォメーションと4階の事務室で対応する2段階のような形になっている。実際にこの方はパブリックコメント内では公表していないが、貸館でご利用されたことが何度かある。その中で時々たらい回しではないが、インフォメーションで解決せず、結果的に事務室で対応することになったことが恐らくもどかしかったのではないかと思われる。その点については、対応品質の均一化やマニュアル整備は重要だと考えている。一方でインフォメーションのスタッフや事務室も人事異動等で人が変わったりする中で、対応品質の均一化のためにマニュアルはあるが、それをどこまで浸透させていくかというところは課題として捉えている。これを方針に載せるというものではないが、より丁寧に対応をしていくというところ本を考え、対応したいと思う。舞台担当者が打合せをするが、利用者の方と丁寧にコミュニケーションを取るなどの姿勢は重要と考えているので、なるべく対応者によって違いが出ないようにマニュアル等を常に検討していかなければならないと思っている。
- ・続いてNo.6。ライトアップ事業について費用対効果や実施目的の成果が見えにくいと感じ、事業費、来場者数、経済波及効果、市民満足度などの検証結果を公表していただきたいというご意見。これはクリスマスの時期にはっちの外壁をライトアップしたり、マチニワにバルーンを装飾展示、はっちひろばにクリスマスツリーを展示するというようなことを行っている。このライトアップ事業したことによって来館者数が増えたどうかは、なかなか分かりづらい。なかなか数字では出しにくい。これについては費用対効果とを見える形で示すのは難しいと考えている。もともとは中心街全体でライトアップを実施していたが、今ははっちだけが行っている。あとは公会堂などが単発で実施しているが、それを数値で表すのは難しいと考えている。
- ・続いてNo.7。まちぐみとの連携について。これははっちとまちぐみの連携実績について、これまでの具体的事業内容と成果を開示していただきたいというもの。成果指標と今後の目標値を明示することで、継続の妥当性がより明確になると思いますというご意見。こちらは個別の事業の評価ということだが、付属資料（資料2）6ページに掲載した。

【ファシリテーター】

- ・資料4の説明について何かあればお願いします。

【E 委員】

- ・パブリックコメントで頂いたご意見について、補足も加えてお話したい。ご存知のとおり、はっち4階に「こどもはっち」があるが、先ほど事務局が述べたように詳しくは福祉部局の担当課が対応していくことになる。コメント内に親子交流プログラムや親権について触れていたが、こどもはっちは玩具のある施設なので、2024年の民法改正（共同親権選択制の導入）よりも前から、交流面会、つまりお別れになった夫婦がこどもはっちで子どもと面会をするのは、公ではないが見受けられていた。それが2年前の福祉団体の会議において「東北では遅れているが、関東の方ではコーディネーターやNPOや行政の手を借りて行っている事業なのでなんとかありませんか」とご提案をいただいた。既にこどもはっちでこのような動きは見受けられており、館内を使うのであれば組織的なことはできるであろうということで、市が事業化し、はちのへ未来ネット（こどもはっちを運営）に委託した。月に何件か問合せもあり、実際に事業を行っている。その際お別れになった方同士が、会いたくないということもあるので、子どもさんの引き渡しはこどもはっちで行っている。これは、はっちとの連携がないとできない場面もある。例えば夫婦が合わないように時間差で4階こどもはっちへ上がる時には、駐車場（番町スクエア）を特別に用意いただいている。その他に通常のエレベーターを使うとニアミスがあるので、時間をずらして一般の方が通常使うことができない業務用エレベーターを使わせていただいている。はっちだからこそできる事業でもある。ただし、こどもはっちという施設だからこそできるので、はっち館内で可能なケースはお受けしているが、それ以外はお受けできないとしている。現在も模索しているところだが、これから面会交流の件数も増えると思われるが、福祉の部分においてもはっちの役割、中心街に立地し、多くの利用者がいることによって面会交流事業が他から目立たない形で実施できるということがはっち館内で行う魅力だと思う。ワークショップの要望もこどもはっちに届いているが、単独で実施できなくても、例えば7月に福祉団体と連携して全国の勉強会をこどもはっちと連携してやらせていただいた。はっちで担当課を通してこどもはっちと共催したりとか、そういうことについて勉強会を実施していく予定も立てている。全部投げるのではなく、はっちと連携して市民の方からの要望をどのようにやったらいいのか館内関係者としては考えていかなければならないと感じている。はっちがあるから実現できる福祉的なこと

もある。やり方や連携の仕方も、これからそういう団体が増えていくと思うので、やってみて事例を作っていくと、市民の要望があった際に「このようにやってみよう」「このような連携の方法がある」といった提示ができるようになればいいと思う。また担当課とはっちとの庁内での連携もやっていただいております、こどもはっちを介さないで担当課どうしで連携していただいておりますので、そういう面では助かっている。

- ・ライトアップのご意見について、これを数字で表すのは難しいと思う。クリスマス
の時期にはっちで光が灯ると、市民の方、特にこどもはっちに来る親子の気持ちが
中心街だなと感じる。そういった市民の気持ちに寄り添う事業というのは、成果と
して見えてこないが、中心街にはっちがあり「あそこにクリスマスのライトアップ
がある」と思えるのは市民として誇らしいこと。ただ数字で表せないのは残念。そ
のような中で私たちがどのようなことができるのかといえば、こどもはっちに遊び
に来た親御さん達に「見てこう思った」といった想いを書いてこどもはっちに掲載
するなど、私たちに何かできることあるのではないかと感じた。

【ファシリテーター】

- ・私もこどもはっちの面会交流サポート事業がどのような事業なのか気になってい
た。E委員に詳しくご説明いただきたいと思っていたところ。

【D委員】

- ・「質的な評価」をこれから積極的に取れ入れる必要があると思った。例えばアートプ
ロジェクトを数値で評価するのは難しい。「質的な評価」で「このような効果があっ
た」と出すことが最近の流れになっている。例えば資料2の18ページ【その他の成
果・効果】内に、エピソードのような記述があった。「ある人はこういった効果があ
った」というのを収集していくと、数値的な評価だけで良い悪いが判断されやすい
状況で対応しやすいと思った。例えば、舞台づくり学校やAIRなどでも参加する市
民の人数が少ない場合は、むしろ参加した方に聞き取りしやすいと思う。そこでど
のような効果があったのか、後で「質的評価」として使えるように戦略的に聞き取
ってこうした評価に使えるようにするのが良いかと思った。
- ・ライトアップについてもE委員が述べたように、文書化したコメントを意識的にま
とめて「このような効果がある」といった質的評価を戦略的に集めると、よりやり
たいことがやりやすくなると思う。

【事務局】

- ・ さきほどD委員とE委員が述べた「目に見えない部分」について。付属資料（資料2）には第3期八戸ポータルミュージアム中期運営方針を作ってから話になるが、具体的・対外的にどのような効果があったのかを数字以外でも説明できる必要があるだろうということで、事業ごとに公表はしていないが、何人参加したといった数字で表せる定量指標と、お客様の声や「イベントをきっかけに、こういう活動に繋がった」といった質的な定性指標を一応入れている。ただそれをしっかり見せられていないと感じた。第4期中期運営方針を毎年評価する中では、事業を実施する中で見えてくる部分をやはり伸ばさないとならない。それは声を伺うということや記録したり、あとはその後をできるだけ追えればいいかなと思う所はある。あとは労力的なところを考えながらになると思うが、E委員からお話いただいた子どもの感想などがあれば説得力が出ると思うので、意識していきたい。

(3) 第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針（最終案）について

【ファシリテーター】

- ・それでは資料1の説明をお願いします。

【事務局】

- ・資料1の第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針（最終案）について、前回の素案の時点での変更点や修正点などを説明する。変更点や修正点は赤字で記載している。
- ・まずは表紙を開いて目次のページ。先ほどの資料3の説明でも申し上げたように素案では「3.現状分析（中心市街地の動向）と5年間の主な評価」としていたが、「評価」を「実績」に変更した。
- ・次いで目次に「9.検討体制」を追加した。検討体制を掲載した方が良いということで、最後のページにアドバイザー会議を開催したということ、事実とし残したいということで、委員のみなさまの名簿や任期などを追記した。
- ・成果や評価を詳しく明示するために、目次の下に「●附属資料 5年間（令和3年度～7年度）の実績や評価等」を追加した。
- ・続いて資料1の1ページ。「1.はじめに」の4～5行目にかけてはですね、素案の段階では、文化施設だけ掲載していたが、15年間にスポーツ施設としてはYSアリーナも中心街で整備されたので追記し、それを契機に「文化スポーツ関連施設」に修正した。また「1.はじめに」の下から5行目を、素案では5年間の「成果」としていたが、「実績」に修正した。次の行では追加した部分として「パブリックコメントや第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針アドバイザー会議でいただいたご意見を反映し～策定しました」と記載している。
- ・1ページ「2.中期運営方針の位置づけと計画期間」については、表現を少し修正しているが、大きな変更はない。
- ・続いて資料1の2ページ。先ほども説明したようにタイトルに「主な実績」と修正している。「現状分析」の項目は表現の修正はあるが、大きな内容の変更はないため、説明を割愛する。
- ・次いで「5年間の主な実績」について実績や評価についてはかなりの分量になるということで、「※実績の詳細は附属資料参照」と注釈を付けた。
- ・方針には「主な実績」という形で4項目にまとめて掲載したが、内容については一

部修正がある。4つの項目のタイトルが変わらないが内容が変わったので説明する。

- ・「●施設間・関係機関との連携」を、素案の段階では右上に位置していたが、最終案（資料1）では左下に置いている。赤字部分は修正箇所だが、素案の段階では1行目に「マチニワイイベント支援事業」を掲載していた。しかしこちらは連携した事業ではないということで、内部で改めて精査し、「●施設間・関係機関との連携」から削除している。その代わりに「マチニワイイベント支援事業」は、素案の段階では「共生社会実現に向けた取り組み」と表現していたところを、「新たな取組」に修正し、素案時点での内容を最終案では後半部分に残して、前半の部分に「マチニワイイベント支援事業」を記載した。マチニワイイベント支援事業は令和4年度からの取組なので、「新たな取組」にまとめたうえで、実績として数字も記載した。これは2月末時点だが、合計77件のイベントにのべ33,475人が来場した旨を記載している。こちらについては、3月末までマチニワイイベント支援事業を実施予定のため、数字はもう少し増える予定。
- ・「5年間の主な実績」の右上「安全快適な施設環境の強化」について。「キャッシュレス決済の導入」が赤字になっているが、素案では「貸館予約システムの改修」と記載していたが、利用者の利便性を高めるという部分ではキャッシュレス決済の方がよりふさわしいということで、内容を修正した。
- ・続いて4ページ。赤字を入れていないが、「8つの未来」のみのアイコンを記載していたが、「未来の実現のために」の一番上の説明の中に「8つの未来の実現を目指します」となっているので、それが何かというのを改めてこのページでも明確に表示したいということで左側に「8つの未来」というタイトルを付け加えた。あとはアイコン自体も全体バランスの中で、少し大きくした。
- ・続いて5ページから11ページ。事業プランについてそれぞれの取組内容を3つの柱ごとに掲載しているが、先ほど説明したものに加えて、事務室スタッフより事業名の記載方法について意見があったので修正を加えた。具体的には7ページをご覧いただきたい。赤字部分になるが、括弧書きで「はちのへホコテン」や「横丁月間」「横丁オンリーユーシアター」などと掲載している。こちらは現在実際に行われている事業だが、5年間の間に必ずしもこの名称で続くわけではないのではないかとということで、逆に掲載してしまうと名称に縛られるのは違うのではないかと意見があった。そこで項目としては取り組む内容を簡潔に示したうえで、例示として各項目に「例えばこういうものを実施する」というような表現に変更した。

- ・ 6ページの「2. 貸館促進事業について」の「○シアター空間の活用 ベヒシュタインピアノ体験企画など」。素案の段階では「ベヒシュタイン体験企画やマチニワピアノの活用」と記載していたが、マチニワピアノはストリートピアノのようなものなので、これを活用することが貸館促進には繋がらないのではないかと意見もあり一部削除した。しかしシアター2はベヒシュタインだけでなく、音響や照明も整った施設なので例えば高校の演劇部が使いやすくするなどシアター活用についても考えられるのではないかとということで、「シアター空間の活用」例示として「ベヒシュタインピアノ体験企画など」と記載した。
- ・ 事業プランの説明は以上とし、13ページにお進みいただきたい。「5. 評価の実施方法」だが、事務室で精査し赤字箇所のスケジュールは実際の事務の流れに合わせて修正した。流れそのものや事務内容は変更なし。
- ・ 最後が14ページ。先ほど説明したように14ページに検討体制としてアドバイザリー会議の委員の皆さんの名簿や任期を掲載した。資料1の説明は以上とする。

【ファシリテーター】

- ・ ご意見や質問があればお願いします。

【E 委員】

- ・ 資料1の6ページ「2. 貸館促進事業」について。利用状況・予約状況だが、借りたいと思っている部屋は意外と埋まっている。市民の方も借りたい部屋が予約できないという声の方がむしろ大きいように思う。このような状況でもあえてさらに貸館をしていただきたいということかと思うが、借りて欲しいのは平日に偏るかと思う。それに特化したものとなると、先ほど述べたような高校の演劇で使って欲しいと思うが、それも早めの調整が必要になると思う。今の段階で、戦略として誰をターゲットにするのかなど何か構想はあるのか。

【事務局】

- ・ 構想はある。会所場づくりの「2階から上階への誘導方策の検討」でこちらの課題としても挙げているが、毎年公表しているアーカイブの中で館内の利用状況や各スペースの稼働率を掲載している。それを見ると、1階はギャラリー1などよく借りられている。一方でシアターなどは料金の問題もあると思うが、特殊な設備という事情もあると思う。一方で自主事業でも利用するためそれなりの稼働率にはなる。昨年度シアター2の稼働率は70%。しかしギャラリー2やギャラリー3などについ

では50%台。そのようなことを考慮すると、特にギャラリーは例えば絵画や写真、ご自身の作品展示など誰でも利用できることを、やはり貸館促進の中で特に新しい利用者の掘り起こし。そのようなことができればより貸館が増えて満足感も高くなって良いのではないかと思っている。目立った形の貸館掘り起こしはこれまで無かったが、人口が減っていく中で、現状のままでは良くないのではないかと思い、取組を挙げた。

【G 委員】

- ・最終案（資料1）2ページ「5年間の成果」の「新たな取組」について。素案の段階では「共生社会実現に向けた取り組み」だったが、最終案では「新たな取組」としたのは、新しい取組をピックアップする枠として記載したという認識でよろしいか。

【事務局】

- ・先ほどご説明したように、マチニワイイベント支援事業が他施設や関係機関と連携して行っているわけではないが、これはこれでたくさんの方にご利用いただいているということで掲載したいと思い、こちらに移動させた結果、このような表現になった。

【G 委員】

- ・「新たな取組」の下にある「障がいの有無や国籍の違いなどを超えて参加できるイベント」はどこかに掲載しているのか。

【事務局】

- ・8ページ「4.文化芸術活動の振興」の「○社会包摂や共生社会の実現に向けた取組」で掲載している。

【G 委員】

- ・新しい取組として実施し、今後もしも取り組んでいくという認識でよいか。

【事務局】

- ・そのとおり。他の計画や関連計画との整合性を図りながら11ページに記載しているが、はちのへ文化のまちづくりプランという計画があり、そちらに社会包摂に取り組んでいこうと掲載しているので、連動した形で私達もこれからも取り組んでいこうと考えている。

【E 委員】

- ・ 10 ページ「7. 居場所・仲間づくり」の「〇まちに関心を持ち関与する市民や団体との連携（再掲） 市民集団『まちぐみ』などとの連携」について。今まで「まちぐみ」と実施してきたと思うが、「などとの連携」と記載しているということは、他の市民団体（中心街を盛り上げるような団体など）とも実施するという意味で捉えてよろしいか。

【事務局】

- ・ そうです。

【E 委員】

- ・ 「まちぐみ」以外ともこれから一緒に事業を行っていくのか。「まちぐみ」のみとの連携事業ではなく、「まちぐみ」のような組織と連携して行っていくという認識でよろしいか。

【事務局】

- ・ そうです。タイトルとして「まちに関心を持ち関与する市民や団体との連携」の例として「まちぐみ」を挙げている。

【E 委員】

- ・ 事業的には別ということ。つまり、わざわざ2段書きしたということ、「まちぐみ」に特化したということは、「まちぐみ」との事業は今まで通り、1つの事業として行っていくということか。

【事務局】

- ・ 先ほど全体としてご説明したのが、事業プランの項目名には、具体的な事業名、現在実施しているものは掲載しないこととし、2行目に例示する形とした。なので「まちに関心を持ち関与する市民や団体との連携」の2段目、現在、連携してるのは、「まちぐみ」である。今後5年間の中で必ずしも「まちぐみ」でなければならないというわけではない。可能性という意味で表現した。この項目に関しては具体的に何かを想定してはいるわけではない。

【C 委員】

- ・ 2ページの「5年間の主な実績」について。表現の仕方だが、付属資料の方は「5

年間（令和3年度～7年度）と記載して分かるが、資料1の方は一目で見た時に令和何年から何年までの間なのか記載があればいいのではないかといった点が気になった。

【事務局】

- ・改めて確認し、資料に反映させるか検討したい。

【D 委員】

- ・評価に値するようなコメントを収集しているので、指標のようなものが整理されていると、より強い評価基準を伝えられると思う。国際芸術センター青森や水戸芸術センターなどの市民参加型ワークショップではよくあるが、ここに通っていた中高生がアートの進路に進んだ特別な事例がよく紹介される。そういったものも質的な指標の事例として強みのあるものだと思う。戦略的にというか、こういった事例を集めることは、何も言われにくくなるのではないか。内部で練って収集していくと良いのではないか。

(4) 付属資料(案)について

【ファシリテーター】

- ・では次に資料2付属資料(案)の説明をお願いします。

【事務局】

- ・資料2について、主に前回との修正点を説明する。
- ・まず表紙のタイトルだが「5年間(令和3年度～7年度)の実績や評価等」とした。
- ・ページをめくると目次に入るが、目次のページが2となっているため、これは後ほど修正する。またパブリックコメントのご意見No.4「方針策定の背景および成果の数値的評価について」を反映させ、「入館数の推移」「施設利用件数の推移」「視察・見学の受入数の推移」を掲載した。
- ・3ページの「入館者数の推移」は令和7年12月末時点の数字となっているが、後ほど3月末時点の数値に差し替える。ちなみに3月12日時点(アドバイザー会議前日)の入館者は61万人を超えており、おそらくこの調子でいけば前年度を超える見込み。
- ・4ページの「施設利用件数の推移」は令和8年2月末時点での数字となっている。
- ・5ページの「視察・見学の受入数の推移」は12月末時点の数字となっており、後ほど差し替える。
- ・6ページに進む。赤字となっている部分が、パブリックコメントのご意見No.7にて、「まちぐみ」との連携実績について具体的事業内容と成果の開示、成果指標と今後の目標値の明示をしたほうが良いという意見について。事業の具体的内容や数値は1年ごとに制作しているアーカイブに掲載しているため、付属資料(資料2)では掲載しない考え。また成果指標と目標値とあったが、事務局では各事業を年度ごとに成果目標を設定しており、それを評価して次年度の事業に反映させる方法を繰り返し行っている状態。しかし「まちぐみ」事業だけ掲載するのはバランスがよくないということで、言葉で記載している。道路補修にどのような方が参加したのかということと、延べ人数を記載している。6ページでは100名が活動に参加と記載しているが、最近また道路ががたついているという声もあり、2回開催し、130名となっている。またメディアに複数取り上げられたことも記載している。「幅広い世代の『やってみたいこと』に伴走することで、機動力のある活動が実現できています」とあるが、この背景にあるのは、高校生がやりたいことを「まちぐみ」で一緒

に行き、イベントを実施したことによる。ペットボトルのフタを集めるイベント、ただ集めるのではなく、イベント化してチラシを作って撒いた方が良いということで、かなりの数のフタが集まった。

- ・次に修正した点は17ページ。前回のF委員から「高校生の居場所について明記してもいいのではないか」とご意見を受けて、もともとあった記載に加筆した。「市内高校の卒業生から、『はっちで勉強したことが高校時代の良い思い出となっている』と言う声もいただいております、はっちが高校生の居場所となっています。」と付け加えた。
- ・17ページ2か所目の赤字修正について。これは前回の会議でA委員より「災害があった時にはっちに安心して避難できる場所ということを成果として取り入れてはどうか」とご意見をいただき、新規で反映させた。平成23年3月11日に発生した東日本大震災と、令和7年12月9日に発生した青森県東方沖地震で約80人が避難した。はっちは指定避難所ではないが、はっちに行くと安心・安全という意識を持っていただいているということで記載している。
- ・続いて18ページ。内容に変更はないが、評価と取組に分けている。

【ファシリテーター】

- ・質問やご意見があればよろしくお願いします。

【G委員】

- ・17ページの「その他の成果・効果」の上から3つ目。視察件数のランキングについての項目だが、「先日公表された」と書いてあるが、先日とはいつのことか。

【事務局】

- ・資料を作成した時期のままで記載していた。「先日」ではなく、具体的にいつと記入するよう改めて修正する。

【F委員】

- ・今後5年間の新しい計画を考えた時に、これからの新しい出来事として、旧チーノ跡地のマンションが3月から入居を開始する。新住民が増えることを考慮すると、例えば情報発信の対象として観光客ではなく、マンションの新住民などを対象とするのかは分からないが、平日の利用者を考えた時に新しくマンションに住む方の世代にもよるが、他の町ではマンション1戸だけだとそこまで見えなかったが、マン

ションが何戸か増えると、今まで土日にやっていたワークショップがむしろ平日の子どもの送り迎えを終わったタイミングの方がものづくりとかによく出てくれる人が現れるのでは。そのためにイベントを増やして欲しいというわけではないが、マンションが増えてきている、これから新しいマンションができる時のトレンドとして捉えて、新たに増える住民に情報を届けるといった新しい住民の受入について、一言あっても良いのかなと感じた。

- ・資料3のC委員のご意見⑥のところ、「VISIT」と書いているが「VISITはちのへ」と書いた方がいいのでは。

【事務局】

- ・修正する。

【事務局】

- ・G委員のご指摘について。付属資料（資料2）10ページに「来年2月11日に開館15周年を迎えるにあたり～」の記載だが、既に終了したのでそちらも修正する。

【E委員】

- ・新しいマンションはどのような年齢の人が入居するのだろうか。調べればF委員が述べたようにターゲットが分かるかもしれない。おそらく若い家族の世代が増えるのかなと思う。

【F委員】

- ・商店街の関係者などからマンションを建てているフージャースコーポレーションにお願いして、マンションの入り口付近（住民のみ入れる場所）のエントランスに掲示板のようなものを作ってもらい、イベント情報や町の情報を掲載するスペースを作ることを約束していただいている。ただ、個人情報という側面もある。

【事務局】

- ・F委員のご意見は中期運営方針に掲載するかどうかは別として、「ターゲットを絞った情報発信の取組」ということで、最終案（資料1）に掲載はしている。あとはチラシ配布は中心街の商店街のみなさんにお配りしたりする中で、ターゲットとなるのか分からないが、分かってきたらマンションの住民にもアプローチすることを意識していければと思う。

【ファシリテーター】

- ・その世代の中で情報のやり取りというのは、例えば SNS やインスタグラムで 30 代の方がどのようなところで情報を受けているのか。或いは紙媒体。例えばマチニワにはチラシを置いているが、どれくらいはけているか。或いはインフォメーション横のチラシを来館者がどのくらい持って行っているのか、そういったものは資料としてあるのか。チラシを何枚置いて、市民が何枚持って行ったのか。

【事務局】

- ・数字としては捉えていない。あとは事業によっても配布先が異なるため、詳細に数えてはいない。たくさんチラシがはけたとか、人気だねといった感じ。人気がある企画はそれを知っている人が参加する。そう言うっては元も子もないが、そうではないところもやる中で、あとは無理やりに全員に配るとか

【ファシリテーター】

- ・私の大学でもイベントを実施する時にどのように情報発信したらよいのか悩んでいる。大学案内などを紙媒体でやりましようと言っても、高校生は紙媒体を見ない。インスタグラムや SNS の発信とか。新聞の掲載もあるが、新聞を見ないとしたら、見ない人よりも見る人を優先的に情報発信した方が良いのかなと考えている。前提としてはどの世代がどの情報の受け手となっているのか。それを考えなければならぬというのが、大学でも議論になっている。

【事務局】

- ・これは話が尽きない問題。広報はどこでも悩んでいる。はっちでは事業によって性質が異なる。たくさん来て欲しいイベントとそうではないイベントもある中で、ターゲットを絞る。中高生が来て欲しいイベントは、中高生全員に無理にでは撒くこともある。たくさん気軽に参加できるものについてはターゲットが広がる。もちろん SNS も使っている。お金がなくてもできることという中で、それこそ d ボタン広報のようなチャンネルはある。テレビとタイアップすれば、当然たくさん流れる。はっちの事業は稼ぐ感じがなかなか難しい。シアター自体も 100 名程度の収容数。

【ファシリテーター】

- ・他にご意見があればお願いします。

【C 委員】

- 他の委員も述べているが、事業がたくさんあるので「質」を高めていただいて、やめる勇気をもっていただければと思う。なかなか事業をやめることができない状態が続くと思うので、良いものは伸ばして継承し事業を進めていただければと思う。はっちは賑わい創出と交流人口に重きを置いていると思うが、先ほども費用対効果の話があったが、中心街に寄与しているところもポイントポイントで答えればなお良いと思う。良い取組を続けていただきたい。

+

(5) 今後のスケジュールについて

【ファシリテーター】

- ・ご意見が無いようでしたので、次第3（2）今後のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・今後のスケジュールについて。今回の会議でのご意見を受けて第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針及び付属資料に適宜反映し、3月下旬に完成させ、八戸市ホームページで公開する予定。
- ・パブリックコメントについては、表現等を整えて、3月下旬に八戸市ホームページに掲載予定。
- ・その後、4月中旬の市の経済協議会で第4期八戸ポータルミュージアム中期運営方針の完成を報告するようなスケジュールとなっている。
- ・委員のみなさんには完成後の資料をホームページ公開と合わせて郵送する予定。

【ファシリテーター】

- ・ただいまの説明で質問やご意見が無いようなので、本日の議事は終了とする。
- ・最後にファシリテーターからひとことご挨拶を述べたい。委員のみなさまと事務局には感謝を申し上げる。
- ・ところで「はっち」というのは、八戸市のシンボルになりうる存在なのではないかと思っている。シンボル、象徴を具体的に考えると、たとえば、日本の象徴は何かといえば富士山、或いは東京タワーといった高い山や高い建物が考えられる。そういう高い山や高い建物は市民或いはみんなから一望できるようなものがシンボルになりうるのだろう。しかしながら、このはっちという文化施設はそのような一望できるものではない。そうすると、はっちという文化施設がシンボルになるということはどういうことなのかを考えると、それは人々の「想い」が必要になるのではないだろうか。つまり、八戸市民の方々がはっちへの「想い」をずっと持ち続けられるかどうかということである。では想い続けられるために何が必要かと言うと、これは2月14日にはっちで開催された「集う場所からつながる場所」というテーマでの講演の後で、私が討論者の方に個人的に質問した回答として、「いろいろな文化施設ができていますが、人があつまらず失敗したところもある。失敗したところは何か、なぜ人が集まらなかったかという、やはり企画だった。良い企画があれば人

が集う。それからつながる場所になる。」という話を伺った。今後は、はっちの職員やコーディネーターの想いや企画がすごく大切になると思うので、今後とも市民のみなさん全員を巻き込んで、いろんな企画を作っていただければいいなと思う。それはまた、マンパワーとしては大変な負担を負わせることになるかと思うので、そこは取捨選択しながらやっていただければいいかなというような形で、はっちはずっと八戸市民の想い続けられる場所であってほしい。ということで最後にファシリテーターからの一つのご意見として考えを述べさせていただいた。全3回、お忙しい中参加していただきありがとうございました。

【事務局】

- ・ありがとうございました。委員のみなさまも長時間にわたりご意見をいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちまして、第3回八戸ポータルミュージアム中期運営方針アドバイザリー会議を終了させていただきます。この会議は今回をもって終了となりますが、また違う形でご指導ご鞭撻いただければと思いますので、委員のみなさまには今後ともよろしくお願ひします。